

**平成 29 年度  
荒尾市教育振興基本計画  
数値目標報告書**

**平成 31 年 3 月  
荒尾市教育委員会**

# 平成29年度荒尾市教育振興計画数値目標報告書

基本目標：家庭や地域の絆の中で、「生きる力」の基礎をはぐくむ

＜取組状況と課題＞

基本的な生活習慣を育成するため、家庭教育支援リーフレット「荒尾っ子のできるといいね」の普及啓発や「早寝早起き朝ごはん」運動を推進しています。また、乳幼児期からの読み聞かせに努め、家庭教育に対する理解と充実を図るため「くまもと親の学び」を活用していきます。今後も、保護者の子育てに対する不安や悩みを解消し、家庭教育に関する学習機会や情報の提供に努め、地域との連携を深めながら地域全体で子どもを見守る体制を考えていきます。

朝食を毎日食べている児童生徒の割合

平成28年度現状	平成29年度現状	平成33年度目標
83%	84%	95%

基本目標：自ら学び、自ら考え、自ら行動する力をはぐくむ

＜取組状況と課題＞

学校教育の最重要課題である「確かな学力」を身に付けるため「あらおベーシック」と「メディアコントロール」に取り組んでいます。具体的には、新学習指導要領で示される「主体的・対話的で深い学び」を実践する旨授業そのものの在り方を抜本的に見直し、教職員の指導力の向上を図るため「授業改善アドバイザー」を取り入れ学力向上につなげていきます。教育ICT環境では電子黒板やタブレット、無線LAN等を整備していき教育活動の充実につなげます。また、中学校では「英検チャレンジ」を行い、英語力向上を図りグローバルな感性を育みます。

全国学力・学習状況調査正答率

平成27年度実績		平成29年度実績		平成33年度目標	
小学校	全国平均を上回る	小学校	全国平均を上回る	小学校	全国平均を上回る
中学校	全国平均を下回る	中学校	全国平均を下回る	中学校	全国平均を上回る

自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合

平成28年度現状		平成29年度現状		平成33年度現状	
小学校	73.3% (全国値:76.3%)	小学校	76.2% (全国値:77.9%)	小学校	全国平均を上回る
中学校	59.3% (全国値:69.3%)	中学校	66.1% (全国値:70.7%)	中学校	全国平均を上回る

学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合

平成28年度現状		平成29年度現状		平成33年度目標	
小学校	83%	小学校	86%	小学校	95%
中学校	81.4%	中学校	75.2%	中学校	90%

体力テストについて

平成28年度現状		平成29年度現状		平成33年度目標	
小学校	86/96項目で 県平均を上回る	小学校	66/96項目で 県平均を上回る	小学校	全項目で 県平均を上回る
中学校	40/48項目で 県平均を上回る	中学校	24/48項目で 県平均を上回る	中学校	全項目で 県平均を上回る

英検3級相当の学力のある生徒の割合(中学卒業時)

平成27年度実績	平成29年度実績	平成33年度目標
13%	24.5%	30.0%

コミュニティ・スクール導入校

平成28年度現状	平成29年度現状	平成33年度目標
1校	2校	7校

基本目標：生涯にわたって健やかに学び続ける人をはぐくみ、地域社会における教育力の向上をはかる

<取組状況と課題>

生涯学習・生涯スポーツに関しては、中央公民館、市立図書館、運動公園施設を拠点として、様々な講座の開催や各種サークル活動、スポーツ活動を支援しており、今後も利用者のニーズを的確に把握しながら事業を推進していきます。また、社会情勢の変化が激しい現代において、子どもたちの「生きる力」や「地域社会とのつながり」を育てていくには、教職員だけでなく地域の教育力が必要であり、地域と学校の連携・協働を目的に「地域学校協働活動事業」、「放課後子ども教室事業」、「地域未来塾事業」を実施しています。今後、さらに地域人材の育成・確保に努めていきます。

学校支援ボランティアの数

平成27年度実績	平成29年度実績	平成33年度目標
20,194人	20,580人	20,600人

図書館の来館者数

平成27年度実績	平成29年度実績	平成33年度目標
49,139人	42,630人	50,830人

教養・スポーツの場に関する満足度

平成27年度実績	平成29年度実績	平成33年度目標
31.5%	32.0%	37.0%

運動習慣のある者の割合

平成27年度実績		平成29年度実績		平成33年度目標	
男性	41.7%	男性	52.1%	男性	43.0%
女性	39.5%	女性	38.5%	女性	42.0%

基本目標：ふるさとの自然や伝統、文化を学び、誇りや愛着をもち、文化を通じた国際交流の推進をはかる

<取組状況と課題>

本市の伝統文化を学ぶ機会として、市史等の講演会や出前講座等を実施していますが、今後も更に周知、啓発を推進し、市民の「郷土を愛する心」を育てていきたい。また、文化芸術を継承するにあたり、担い手不足という課題もあるため、各団体に対する支援も継続していきます。国際交流については、宮崎兄弟と孫文の関わりの歴史を基に中国等アジア各国との交流があり、特にシンガポールの晩晴園とは協定に基づく共同報告書を平成31年度に発刊予定ですが、その後の長期的な視点での施策を検討していく必要があります。

文化的な環境に関する満足度

平成27年度実績	平成29年度実績	平成33年度目標
34.2%	39.3%	45.0%

宮崎兄弟の生家施設関連交流件数

平成27年度実績	平成29年度実績	平成33年度目標
14件	18件	17件

# 荒尾市教育振興基本計画数値目標の平成29年度報告書に関する概評

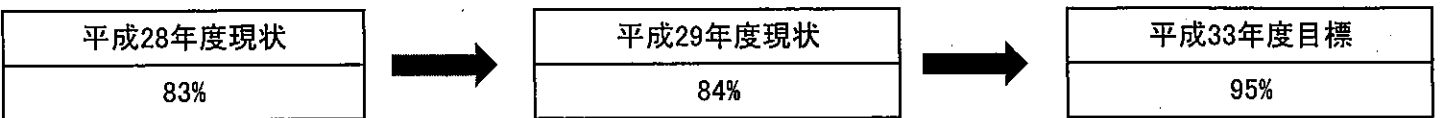
事務点検評価委員：山本 孝司

基本目標：家庭や地域の絆の中で、「生きる力」の基礎をはぐくむ

＜取組状況と課題＞

基本的な生活習慣を育成するため、家庭教育支援リーフレット「荒尾っ子のできるといいね」の普及啓発や「早寝早起き朝ごはん」運動を推進しています。また、乳幼児期からの読み聞かせに努め、家庭教育に対する理解と充実を図るため「くまもと親の学び」を活用していきます。今後も、保護者の子育てに対する不安や悩みを解消し、家庭教育に関する学習機会や情報の提供に努め、地域との連携を深めながら地域全体で子どもを見守る体制を考えていきます。

朝食を毎日食べている児童生徒の割合



【概評】

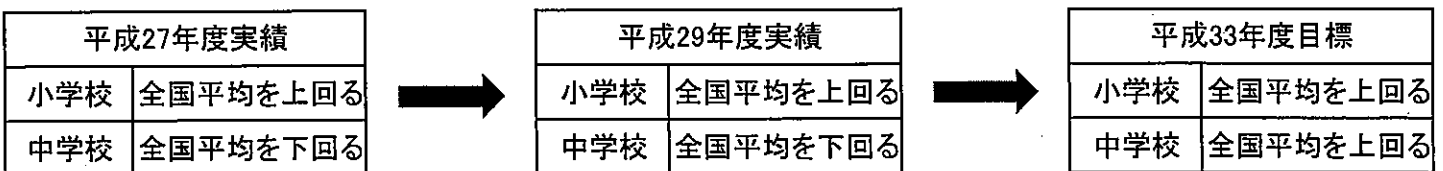
「くまもと親の学び」をはじめ、「荒尾っ子の『できるといいね』」等を活用しつつ、家庭教育の重要性についての啓発と支援に努められた結果、前年度(H28)よりもわずかではあります。が、「朝食を毎日食べている児童生徒の割合」が増加しています。他方で、保護者の事情により、子どもたちの基本的な生活習慣の育成に手が回らない家庭も存在し、それらが「不登校」等の子どもたちの抱える問題の背景になっていたりします。朝食を毎日食べていると答えていない児童生徒の中にもそうした状況を反映している子どもが含まれていると思われます。平成33年度の目標に近づくためには、今後より一層教育と福祉の担当部署による連携が必要だと考えます。

基本目標：自ら学び、自ら考え、自ら行動する力をはぐくむ

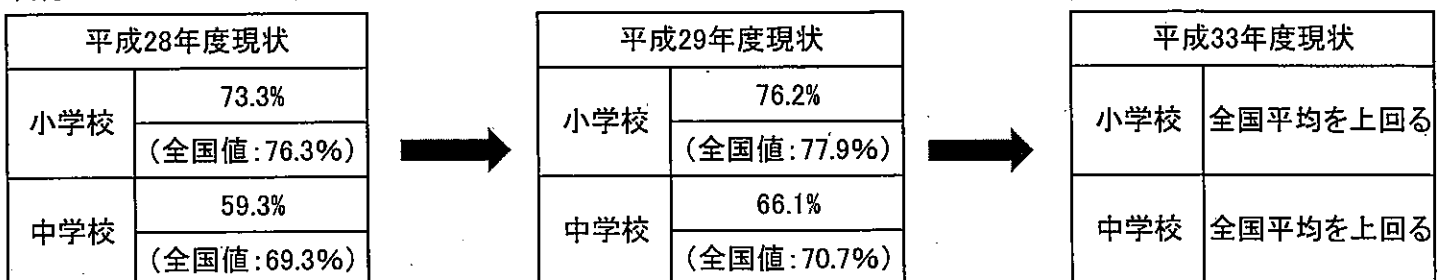
＜取組状況と課題＞

学校教育の最重要課題である「確かな学力」を身に付けるため「あらおベーシック」と「メディアコントロール」に取り組んでいます。具体的には、新学習指導要領で示される「主体的・対話的で深い学び」を実践する旨授業そのものの在り方を抜本的に見直し、教職員の指導力の向上を図るため「授業改善アドバイザー」を取り入れ学力向上につなげていきます。教育ICT環境では電子黒板やタブレット、無線LAN等を整備していき教育活動の充実につなげます。また、中学校では「英検チャレンジ」を行い、英語力向上を図りグローバルな感性を育みます。

全国学力・学習状況調査正答率



自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合



学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合

平成28年度現状		平成29年度現状		平成33年度目標	
小学校	83%	小学校	86%	小学校	95%
中学校	81.4%	中学校	75.2%	中学校	90%

体力テストについて

平成28年度現状		平成29年度現状		平成33年度目標	
小学校	86/96項目で 県平均を上回る	小学校	66/96項目で 県平均を上回る	小学校	全項目で 県平均を上回る
	中学校		40/48項目で 県平均を上回る		中学校

英検3級相当の学力のある生徒の割合(中学卒業時)

平成27年度実績	平成29年度実績	平成33年度目標
13%	24.5%	30.0%

コミュニティ・スクール導入校

平成28年度現状	平成29年度現状	平成33年度目標
1校	2校	7校

【概評】

前年度と比較してよくなっている点(水準維持を含む)は次です。①学力(小学校)、②中学生の英語力、コミュニティ・スクール導入状況。他方で、課題となるのは次です。①「学力」(中学校)が前年度に引き続き全国平均を下回っていること。②「自己肯定感」に関して、前年度(H28)の水準を上回る回答になっているが、全国平均からすると荒尾の児童生徒はやや下回る結果であること。③学校が「楽しい」と答えた児童生徒の数値に関して、小学校では前年度より上昇、中学校では下降が見られること。④体力に関して、小中学校ともに県平均を上回る項目が減っていること。よくなっている点については今後もこの水準を維持できるよう努め、課題に関しては、重点的にテコ入れが可能となるような、取り組みの発案が必要だと思います。特に子どもたちの体力向上に関しては、運動部活動の社会体育化と合わせてご検討ください。

基本目標：生涯にわたって健やかに学び続ける人をはぐくみ、地域社会における教育力の向上をはかる

<取組状況と課題>

生涯学習・生涯スポーツに関しては、中央公民館、市立図書館、運動公園施設を拠点として、様々な講座の開催や各種サークル活動、スポーツ活動を支援しており、今後も利用者のニーズを的確に把握しながら事業を推進していきます。また、社会情勢の変化が激しい現代において、子どもたちの「生きる力」や「地域社会とのつながり」を育んでいくには、教職員だけでなく地域の教育力が必要であり、地域と学校の連携・協働を目的に「地域学校協働活動事業」、「放課後子ども教室事業」、「地域未来塾事業」を実施しています。今後、さらに地域人材の育成・確保に努めていきます。

学校支援ボランティアの数

平成27年度実績	平成29年度実績	平成33年度目標
20,194人	20,580人	20,600人

図書館の来館者数

平成27年度実績	平成29年度実績	平成33年度目標
49,139人	42,630人	50,830人

教養・スポーツの場に関する満足度

平成27年度実績	平成29年度実績	平成33年度目標
31.5%	32.0%	37.0%

運動習慣のある者の割合

平成27年度実績		平成29年度実績		平成33年度目標	
男性	41.7%	男性	52.1%	男性	43.0%
女性	39.5%	女性	38.5%	女性	42.0%

【概評】

【学校支援ボランティアの数】については、順調に増えており、平成33年度目標が達成可能な域にある。  
 【図書館の来館者数】については、平成27年度の実績と比較して平成29年度は落ち込んでいる。この年度の数字は、前年度の熊本地震の影響も考慮に入れなければならないが、今後の来館者数を増やすための事業発案が必要である。  
 【教養・スポーツの場に関する満足度】については、平成27年度、29年度ともに低い水準にあるため、平成33年度目標を達成するために、さらに一層利用者のニーズに対応できるよう努めていただきたい。  
 【運動習慣のある者の割合】については、男性は平成29年度の時点で平成33年度目標を達成しているので、今後もこの水準の維持に努められたい。女性の運動習慣が平成27年度、29年度ともに低水準にとどまっているので、今後女性に対するアプローチの検討が必要である。

基本目標：ふるさとの自然や伝統、文化を学び、誇りや愛着をもち、文化を通じた国際交流の推進をはかる

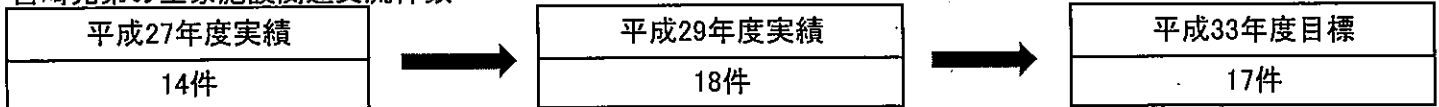
<取組状況と課題>

本市の伝統文化を学ぶ機会として、市史等の講演会や出前講座等を実施していますが、今後も更に周知、啓発を推進し、市民の「郷土を愛する心」を育てていきたい。また、文化芸術を継承するにあたり、担い手不足という課題もあるため、各団体に対する支援も継続していきます。国際交流については、宮崎兄弟と孫文の関わりの歴史を基に中国等アジア各国との交流があり、特にシンガポールの晩晴園とは協定に基づく共同報告書を平成31年度に発刊予定ですが、その後の長期的な視点での施策を検討していく必要があります。

文化的な環境に関する満足度



宮崎兄弟の生家施設関連交流件数



【概評】

【文化的な環境に関する満足度】、【宮崎兄弟の生家施設関連交流件数】ともに、順調に数字は伸びています。前者に関しては、11月開催の「荒尾市民文化祭」等、市民の伝統文化に関する学びの成果発表の場も確保されている。毎年、海外の文化をとり入れた発表とともに詩吟等日本の伝統に特化した発表も数多くある。今後も出演者の輪を広げて、プログラムの充実を図っていただきたい。後者に関しては、宮崎兄弟関連施設に絞ってみれば、中国を中心としたアジア地域が中心となるが、「明治日本の産業革命遺産」と組み合わせ、より広い範囲へと交流の推進に努めていただきたい。

# 荒尾市教育振興基本計画数値目標の平成29年度報告書に関する概評

事務点検評価委員:宮辺 博幸

基本目標：家庭や地域の絆の中で、「生きる力」の基礎をはぐくむ

＜取組状況と課題＞

基本的な生活習慣を育成するため、家庭教育支援リーフレット「荒尾っ子のできるといいね」の普及啓発や「早寝早起き朝ごはん」運動を推進しています。また、乳幼児期からの読み聞かせに努め、家庭教育に対する理解と充実を図るため「くまもと親の学び」を活用していきます。今後も、保護者の子育てに対する不安や悩みを解消し、家庭教育に関する学習機会や情報の提供に努め、地域との連携を深めながら地域全体で子どもを見守る体制を考えていきます。

朝食を毎日食べている児童生徒の割合

平成28年度現状	→	平成29年度現状	→	平成33年度目標
83%		84%		95%

【概評】

根強い生活習慣の改善には学校と家庭との連携が必須である。現状打開のための普及啓発活動に取り組み、目標値をクリアしていただきたい。

基本目標：自ら学び、自ら考え、自ら行動する力をはぐくむ

＜取組状況と課題＞

学校教育の最重要課題である「確かな学力」を身に付けるため「あらおベーシック」と「メディアコントロール」に取り組んでいます。具体的には、新学習指導要領で示される「主体的・対話的で深い学び」を実践する旨授業そのものの在り方を抜本的に見直し、教職員の指導力の向上を図るため「授業改善アドバイザー」を取り入れ学力向上につなげていきます。教育ICT環境では電子黒板やタブレット、無線LAN等を整備していき教育活動の充実につなげます。また、中学校では「英検チャレンジ」を行い、英語力向上を図りグローバルな感性を育みます。

全国学力・学習状況調査正答率

平成27年度実績		→	平成29年度実績		→	平成33年度目標	
小学校	全国平均を上回る		小学校	全国平均を上回る		小学校	全国平均を上回る
中学校	全国平均を下回る		中学校	全国平均を下回る		中学校	全国平均を上回る

自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合

平成28年度現状		→	平成29年度現状		→	平成33年度現状	
小学校	73.3%		小学校	76.2%		小学校	全国平均を上回る
	(全国値:76.3%)			(全国値:77.9%)			(全国値:77.9%)
中学校	59.3%		中学校	66.1%		中学校	全国平均を上回る
	(全国値:69.3%)			(全国値:70.7%)			(全国値:70.7%)



学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合

平成28年度現状		平成29年度現状		平成33年度目標	
小学校	83%	小学校	86%	小学校	95%
中学校	81.4%	中学校	75.2%	中学校	90%

体力テストについて

平成28年度現状		平成29年度現状		平成33年度目標	
小学校	86/96項目で 県平均を上回る	小学校	66/96項目で 県平均を上回る	小学校	全項目で 県平均を上回る
	中学校		40/48項目で 県平均を上回る		中学校

英検3級相当の学力のある生徒の割合(中学卒業時)

平成27年度実績	平成29年度実績	平成33年度目標
13%	24.5%	30.0%

コミュニティ・スクール導入校

平成28年度現状	平成29年度現状	平成33年度目標
1校	2校	7校

【概評】

「英検チャレンジ」の実施により、英語力の向上に大きな成果がみられている。引き続き目標達成に向け取り組んでいただきたい。その他の項目についても、教師と児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実践し、授業の見直しにより学力の向上に努め、目標達成に向け努力されたい。

基本目標：生涯にわたって健やかに学び続ける人をはぐくみ、地域社会における教育力の向上をはかる

＜取組状況と課題＞

生涯学習・生涯スポーツに関しては、中央公民館、市立図書館、運動公園施設を拠点として、様々な講座の開催や各種サークル活動、スポーツ活動を支援しており、今後も利用者のニーズを的確に把握しながら事業を推進していきます。また、社会情勢の変化が激しい現代において、子どもたちの「生きる力」や「地域社会とのつながり」を育てていくには、教職員だけでなく地域の教育力が必要であり、地域と学校の連携・協働を目的に「地域学校協働活動事業」、「放課後子ども教室事業」「地域未来塾事業」を実施しています。今後、さらに地域人材の育成・確保に努めていきます。

学校支援ボランティアの数

平成27年度実績	平成29年度実績	平成33年度目標
20,194人	20,580人	20,600人

図書館の来館者数

平成27年度実績	平成29年度実績	平成33年度目標
49,139人	42,630人	50,830人

教養・スポーツの場に関する満足度

平成27年度実績	平成29年度実績	平成33年度目標
31.5%	32.0%	37.0%

運動習慣のある者の割合

平成27年度実績		平成29年度実績		平成33年度目標	
男性	41.7%	男性	52.1%	男性	43.0%
女性	39.5%	女性	38.5%	女性	42.0%

【概評】

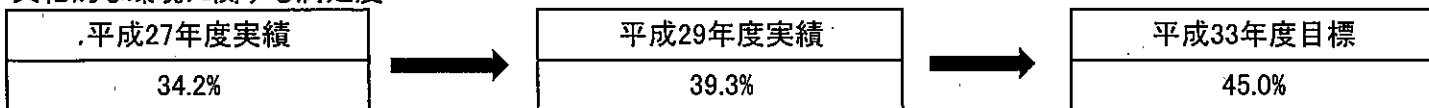
地域における学校教育への意識が高まり、ボランティアの数もほぼ目標値に達している。今後も人材の確保、育成のための取り組みを続けられたい。図書館の来館者数の減少に対しては、他の公立図書館との比較検討などにより魅力ある図書館づくりへの取り組みを期待したい。

基本目標：ふるさとの自然や伝統、文化を学び、誇りや愛着をもち、文化を通じた国際交流の推進をはかる

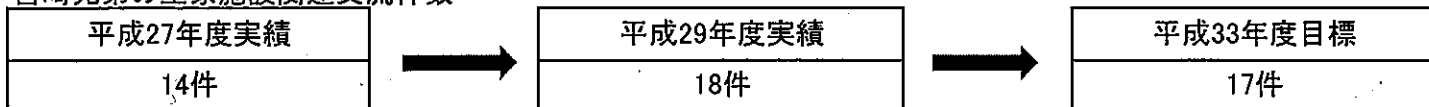
<取組状況と課題>

本市の伝統文化を学ぶ機会として、市史等の講演会や出前講座等を実施していますが、今後も更に周知、啓発を推進し、市民の「郷土を愛する心」を育てていきたい。また、文化芸術を継承するにあたり、担い手不足という課題もあるため、各団体に対する支援も継続していきます。国際交流については、宮崎兄弟と孫文の関わりの歴史を基に中国等アジア各国との交流があり、特にシンガポールの晩晴園とは協定に基づく共同報告書を平成31年度に発刊予定ですが、その後の長期的な視点での施策を検討していく必要があります。

文化的な環境に関する満足度



宮崎兄弟の生家施設関連交流件数



【概評】

市史等の講演会や出前講座等の実施により本市の伝統文化への関心は高まってきている。今後も周知、啓発を続け目標値を達成していただきたい。宮崎兄弟生家関連事業についても目標以上の成果が上がっている。今後の施策に期待したい。